

令和7年度 予算審査特別委員会(2日目)

会議録(質疑応答)

令和7年3月11日(火)午前9時～
千代田町役場3階全員協議会室

教育委員会（一般会計）

○委員長（橋本和之君） 説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。

なお、質問は1人3回で、次の人へ移っていただき、再質問の場合はほかに質問者がいなくなった時点でお願いいたします。

では、質疑をお願いいたします。

大谷委員。

○委員（大谷純一君） 何点かあるのですが、まずICTについてなのですが、タブレットを交換することだったのですけれども、多分子供と先生の分で700ぐらいを想定しているのでしょうか、そうすると9万円だとちょうど6,300万みたいな金額になってくるのですけれども。思うのは、5年ぐらい使ったのでしょうか、そうすると今まで使った分というのは売却できるのでしょうか、ただになってしまうのでしょうか。相当あると思うのですけれども、当然電化製品であれば、しかるべく値段はつくかなと思うのですが、その辺は考えていないのかどうかということと、あとは給食センターについて質問なのですけれども、今町内で最後のスーパーが閉店してしまったのですけれども、食材確保という点であれば、米だったり野菜だったりすれば、地元の農家さんから直接購入ということも考えられるのですけれども、今そういう給食業界も専用の問屋さんみたいなところから仕入れているのでしょうか、その辺ルートというか、今現状どうしているのか、お尋ねしたいと思います。

○委員長（橋本和之君） 秋本係長。

○総務係長（秋本憲利君） ご質問にお答えいたします。

タブレットの端末の数なのですけれども、児童生徒、あと教員の数といたしまして900台を予定しております。一応単価としましては7万円の900台ということでこの金額を計上させていただいております。その中で、端末の入替えに伴う廃棄の部分なのですけれども、今この議会の中でも端末を使っていると思うのですけれども、そういう形で役場の中だったりで使用できたらいいということで、廃棄は取りあえず考えていない状態しております。売却する場合については、費用は幾らかでも有料というか、有償というのですか、幾らかでもお金になるというような話は聞いております。なので、どういった形がいいかというのは今後検討していきたいと思っております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 荒井所長。

○給食センター長（荒井 稔君） 大谷委員のご質問にお答えしたいと思います。

食材関係の販売ルートというご質問でございますけれども、まず加工品だとか、あるいは調味料関係等については、食品の専門業者というのですか、こちらの町外になりますけれども、そういったところから約6者ぐらいになるかなと思うのですけれども、そちらから購入をしています。また、野菜関係でございますけれども、地場産というような、積極的に地場産の野菜を仕入れるということをやっておりますけれども、地元の農家さんですと、ご存じのとおり米麦が主流というようなこともあって、なかなか野菜を確保することが難しいのですけれども、極力野菜については地場産を使いたい。そのほかに館林に中央市場という業者さんがあるのですけれども、野菜については主にそちらから購入しているというような状況です。また、肉関係ですか、肉については今まで有賀さんとクリバラさんをお願いしたのですけれども、クリバラさんのほうが廃業してしまいましたので、現在は有賀さんと市場、館林中央市場のほうが肉のほうも仕入れることができるというようなことで、肉については市場のほうから購入するというような状況でございます。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 大谷委員。

○委員（大谷純一君） まず、タブレットの件で、多分本体とケースもそのとき買って、あとキーボードも新しくするのか、それとも今までのを流用できるのかということをお尋ねしたいなと思います。給食センターに限っては、例えば群馬県だから、群馬県内で、館林の市場を使っているのか、その辺はちょっと分からないのですけれども、これ別に売り込んでいるわけではなくて、遠いのですけれども、私、業界人なものですからあれなのですけれども、行ったら、魚は足利の市場が有名だったのです。今、でもその足利の市場も倒産したりどうしたりという、そういうコロナ禍でいろいろ問題があったのでしょうけれども、果物、野菜に限っては桐生の市場がいいと言われていたのです。別にこれそうしてくれということではないです。桐生の市場なんかには給食センターに食材をカットしてもう加工して納めているような業者とかもあるので、そういうところというか、別に遠いですから、もっと近場でそういうのがあれば、安価な値段で、もう野菜がきれいになった状態で作れる状態のような業者もあるようですから、そういうのもいろいろ値段によってでしょうけれども、検討していただければいいのかなと思います。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 秋本係長。

○総務係長（秋本憲利君） キーボードの活用についてのご質問に対して回答させていただきます。

キーボード付ケースなのですけれども、端末がタブレットの大きさが異なることから、活用はできないという状態です。実際に端末のほうはやっぱ5年ということで、それなりに容量が今どんどん大きくなっていますので、その部分が圧迫している部分で、キーボードについては同じく5年間使っ

てきた中で、今故障が多数出ておりまして、今簡易的な安いケースに交換をしているという状態ですので、活用はできないということでよろしくお願いします。

○委員長（橋本和之君） 荒井所長。

○給食センター長（荒井 稔君） 先ほどの大谷委員さんの質問でございます。

今回クリバラさんが廃業になって、結構クリバラさんがいろんな材料、食材を扱ったのです。それだけに廃業になったのは大変痛かったのですけれども、そんな関係でセンターとしてもいろいろな業者さんを見つけたりしました。ただ、大谷委員さんおっしゃるとおり、やはりできるだけ新鮮なものをという、早く、また遠いと配送料等もかかってきますので、なるべく近い業者さんということで今の業者さんとの取引になっているかなと思います。ただ、いろんなそういった業者さんの情報がありましたら、ぜひお教えいただければと思います。

以上でございます。

○委員長（橋本和之君） 高橋町長。

○町長（高橋純一君） 学校給食費の件なのですけれども、委員が述べたように、地元の方が数年前から、有賀さんのところもクリバラさんのところも昨年閉店したということなのです。そうしますと、もう食材もあそこで仕入れていた部分もあるのです。この面でもそうなのですけれども、そういうことも想定しながら、我々もいろいろ検討していた分けなのです。その中で、今給食センターの荒井所長が述べたように、いろいろなところから情報を入れながら、クリバラさん等々が仕入れているところを紹介していただいたり、そのようなことで昨年からののですけれども、仕入れているという状況なのです。

ご存じのように、大体学校給食の関係が1億2,000万ちょっとだったのです、経費も入れて。食材が約5,000万ちょっとなのです。これから更に次年度から学校給食費も無料でやっていこうということで、その辺も含めて、少しでも新鮮で安価な葉物野菜等々も上がってきていますけれども、その辺も含めた中でいろいろ情報入れながら検討していければと、こう考えています。

以上です。

○委員長（橋本和之君） いいですか。ほかに質疑のある方。

茂木委員。

○委員（茂木琴絵君） お尋ねしたいことが何個かあるのですが、まず予算書の56ページにあります中段あたり、スポーツ振興くじ助成金というのが令和6年では467万だったのですが、今回2,467万ということで、2,000万増えている理由というのを教えていただきたいのと、あとは200ページの千代田中学校選手派遣費補助金というのが一応去年で据置きになっているのですが、どのようなランクの生徒を派遣するというふうになっているのか。あとは、派遣ということなので、バスとかというのを使っているのかもちょっと分からないのですが、今ほかの全部の大体の課のほうでは光熱費であるとか燃料費が上がっていて、あとはバスの値段であるとか、あとは電車も高騰している中で、このまま据置

きでいいのかどうか、そういうものに関しての補助金をどういうふうにやっていくのかというのをお聞きしたいのと、あと次のページの202ページのほうの10款1項の3目、奨学金のところでも、こちらのほうは少し増えていまして、令和6年が1,200万か、これから何名かちょっと増えるのでしょうか、何名ぐらい増やしているのかというのと、あとは上限とかそういう細かいことをお聞きしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員長（橋本和之君） 森田教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（森田晃央君） ご質問にお答えいたします。

まず、56ページのスポーツ振興くじということなのですが、これに関しましては、皆様にいろいろご心配、ご迷惑をお掛けしたおもてなしマラソンの関係の経費ということで、今回はおもてなしマラソンだけではなくて、この後ですか、都市整備課のほうもマナベさんの南側のほうですか、全協か何かで、多分説明があったかと思いますが、スケボーパークの予定があると思いますが、その補助金の内容も含まれておりますので、額が昨年度に比べて大きくなっているということでございます。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 飯塚局長補佐。

○学校教育係長（飯塚大介君） 千代田中の選手派遣補助費についてお答えしたいと思います。

資格というか、県大会に出場した選手に対してお金が補助されるというか、1日つき栄養費として1,000円ということになっております。例えばチームとして登録メンバーが13人いるのであれば、1日につき1万3,000円分というふうな感じで、基本栄養費ということで、多くの部活がお昼代に充てたりということになっております。それとはまた別に先ほど言いました交通費と言うのもおかしいですが、バス代とか、それはまた別として取っております。そんなことになります。

○委員長（橋本和之君） 秋本係長。

○総務係長（秋本憲利君） ご質問にありました奨学金の関係についてご説明させていただきます。

継続者が12名になっておりまして、追加で10名分計上させていただいております。120万円の増額、前年度から比べて増額となっておりますけれども、そういう形で計上しております。年間1人の方が60万円の支給を受けるというものになっております。

以上です。よろしくお願いいたします。

○委員長（橋本和之君） 飯塚局長補佐。

○学校教育係長（飯塚大介君） ちょっと補足をさせていただきます。

先ほど県大会以上の出場選手と言いましたが、本当に上位大会に出た場合の栄養費以外に、あとは宿泊費なんかの補助なんかもしています。関東大会、全国大会の選手の宿泊費、そんなのもその中から出せるということになっております。すみません、遅くて。

以上になります。

○委員長（橋本和之君） 茂木委員。

○委員（茂木琴絵君） ありがとうございます。

ぜひ中学生、小中もそうですけれども、いろいろな子供がいると思うのですが、ぜひ能力のある子供には、町の宝ですので、しっかりとお金のほうを不安にならないように、例えばお金がないから、何かができなかったとかそういうことのないように、ぜひそこら辺をしっかりと考えていただければと思います。ありがとうございます。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑のある方。

畑中委員。

○委員（畑中弘司君） それでは、令和7年度の課局における事務事業指針というものの、これを基に質問させていただきたいのですが、まず学校整備事業というもので先ほどご説明あったとおり、5億1,800万、土地買収や用地補償などの費用ということで予算を入れられていただいていると、そんなふうに認識しております。ですが、私いろいろ昨年1年間、その学校事業に対していろんな意見を聞いたり、議会報告をしたりして、恐らく執行部のほうにも報告は行っていると思うのですが、こういった今度学校を造るのに対して、説明会、こういったものを行っていかなくては一番大切な時期かなと私は認識しております。そんな中でそういった費用がなぜ今回見込まれなかったのか、アンケートにするにしても多少であります、予算等かかると思うのです。こういった説明というのは非常に大切なことだと思っていますので、そういった費用がなぜここに入っていなかったのか。

あともう一つ、生涯学習のほうで、この生涯学習というものを教育委員会で行っている事業の中で、お子さんからお年寄りまで幅広いニーズで参加ができるものを計画してくださっているのかなと、そんなふうに認識しております。そんな中で、今回の新年度も目標の中にも掲げられているように、いろんなニーズに合わせながらやっていきたいというところが書いてあるのですが、昨年の予算よりか今年度の予算減らしている。なぜこういったことが起きるのか、この辺についてもご説明いただきたいと思います。

○委員長（橋本和之君） 秋本係長。

○総務係長（秋本憲利君） 説明会について回答させていただきます。

まず、一般の方への説明会というのを今後基本計画、今策定している状況なのですけれども、その中でやっぱり説明会というのが必要になってきますので、そちらのほうは考えております。その中で費用の部分なのですけれども、役場に来ていただいたり、プラザに来ていただくという形を考えておりまして、その中で費用については、まずその基本計画の業者さんだったり、あとは技術センターさんの支援もいただきながら実施する考えでおります。その中で費用というのはいかからないのかなということで計上はしていないということです。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 野村係長。

○生涯学習係長（野村英世君） 生涯学習の予算が減っているというところではあるのですが、今年度にサーカスのイベントがあったのですが、今回がその計上がなされていない状態でございます。その中で、誠に申し訳ございません、予算をそこまで固めると言うのも変ですが、計上が上がってこないものがありまして、それをちょっと行事としてはものとして考えておる状態で、それを改めて時期を見てお願いしようかなというところでは考えておる状態でして、現状としては減額になってしまっているというのが現状になっております。ご報告させていただきます。

○委員長（橋本和之君） 森田局長。

○教育委員会事務局長（森田晃央君） 少々補足を説明させていただきたいと思います。

前段の秋本係長からの話がありまして、業務委託で何者かといいますか、設計屋さんですとか技術センターのほうにもお世話になっている部分があるのですが、そういった部分でももちろん先ほど説明がありまして、説明会というのはもう避けて通れないというか、実施して当たり前だと、そういった業務委託の中の費用として設けさせていただいていると、それも含めて委託をさせていただいているということでご理解いただければと思います。

それと、生涯学習に関しまして予算が減額しているという中でなのですが、先ほど野村係長からもありまして、まだ確定していない部分があります。イベントとすると、やはり町民の方が楽しんでいただけるという中で、どうしても演者さんのスケジュールですとかそういったところの兼ね合いがありまして、アプローチは掛けてはいるのですが、演者さんとのスケジュールリングの問題もありまして、確定できていない部分があるということで、金額的には減額になっているけれども、動いているということでご理解いただければと思います。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 畑中委員。

○委員（畑中弘司君） まず、学校関係の件なのですが、これ委託をしているということですが、この学校に関しましては、これ千代田町にできる学校でありますし、しっかり我々が説明する義務があると思うのです。そして、理解してもらわなければならないと思っているのです。そういった中で、やはり業務委託されているのは分かります。基本計画があるのも分かるのですが、こういったことを理解していただいて、田島教育長も今回小中一貫校目指したいという方針をされましたよね。学校の在り方検討委員会でもそういう方向にしたいという話があった場合には、なるべく町民の方にそういった説明をしながら、そういう方向に進めるというのがやっぱりやり方ではないかなと思います。そのような努力を本年度、必ず早いうちにやっていただきたいというのが1つと、あと生涯学習に関しましてはもう先ほどご説明いただいて、またこれから考えていますよということですが、1年を掛けてこの予算ですので、できれば早い段階に来年度見据えて事業計画を立てて予算化というものをさせていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑のおありの方。

金子委員。

○委員（金子浩二君） 学校整備事業の追加で聞きたいことがあるのですけれども、これ5億2,000万、学校を造るための準備金みたいな感じだと思うのですけれども、これ学校を造る本体はどのくらいと考えているのですか。

あとスケジュールです。去年あたりがあと4年で開校と言っていたので、3年で開校できるのか。

それと、あと今回学校給食が無料化になったと思うのですけれども、これについて、新聞等でお知らせというか、PRがほぼなかったと思うのですけれども、これはなぜなのかということ、よく新聞見ると、前橋市も学校給食無料とかやっているのですけれども、千代田町はそれがなかった。結構これは目玉の施策だと思うのですけれども。

それともう一つ、おもてなしマラソンの予算が今回人数最大限という話なのですけれども、今回周年事業、10回目になるのですよね、来年度ですか。それなので、何か新しい取り組みだとかゲストラナーも多少有名な人を呼ぶとか、何か考えてやっていければとは思っているのですけれども、毎回そこら辺、ゲストラナーを呼ぶのに予算が予算がと言っ、では10周年のときは特別な人を呼べたらなとは思っていたのですけれども、よろしくお願いします。

○委員長（橋本和之君） 秋本係長。

○総務係長（秋本憲利君） ご質問に対してご説明させていただきます。

本体の費用に関しましては、概算なのですけれども、中学校と小学校と、あと体育館を含めて、60億ぐらいになるのではないかと考えております。その中でいつできるかというところなのですけれども、3年後の令和10年の4月の開校に向けて動いているところではあります。ただ、今、昨今の週休2日制とか、あとは工期の問題、そういったところでやはりそのしわ寄せはきているのかなというところで業者さんとも相談をしながら今話をしています。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 森田局長。

○教育委員会事務局長（森田晃央君） ご質問にお答えいたします。

学校給食の無償化ということで広報的な部分というところなのですが、すみません、私どもとすると、この予算がある程度、議員の皆様には既に説明がされているのかなという中で、各自治体も含めて、次年度の予算がこういった編成になりましたという中で発表されるのかなと思っていた部分もありますので、その点今後対応策を考えさせていただければと思っております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 君島主任。

○スポーツ振興主任（君島 弘君） 金子委員からの質問のありました、来年度おもてなしマラソンの10周年記念になるというところで、ゲストラナーについていろいろここにいらっしゃる委員さん

とかにもお世話になりながら、昨年度までやらせていただいていたわけなのですけれども、今年につきましても、まだ特に目玉のゲストというのがまだ考えられてはいないのが実情なのですけれども、今年についてはなるべく早め早めに会議等を開かせていただきまして、運営委員さんとかのご意見とかいただきながら、そういったゲストランナーさんについても含めて決めていければなと思っていますので、何とぞよろしくお願いいたします。

○委員長（橋本和之君） 高橋町長。

○町長（高橋純一君） おもてなしマラソンはちょうど10周年なのです。ですので、実行委員会、これからまた次年度のおもてなしマラソンが1月に予定されているのですけれども、実行委員会のほうでまたいろいろ意見を聞きながら、ゲストランナーも含めて、もし足りない分補正か何か組んで賄っていこうかなと考えています。何名ぐらい募集掛けていくとか、これから詳細は詰めていくのですけれども、よく教育委員会とまた相談しながら、その辺は詰めていこうかなと思っています。

それと、学校関係なのですけれども、今年度で5億1,890万の予算を持ってあるのですけれども、これは基本設計を、先日プロポーザルで落札して、あとは今現在土地の査定はおよそ我々素人でも出るので、土地の建物の関係、我々素人だと査定が出ないのです。ですので、それを業者に委託しているという状況なのです。その辺も含めた中で、その後もいろいろそれが大体6月頃にはおおよそですけれども、金額がつかめてくるのかなと思っています。それで交渉したりしていきながら、その後また教育委員会と相談しながら、この買収もありますから、そんな形で進めていければと、こう考えています。逐次議会にも教育委員会の学校関係、特にいろんな部分で開示しながら、相談しながら、情報提供しながら、皆さんの意見聞きながら進めていこうかと、こう考えています。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 金子委員。

○委員（金子浩二君） そうすると、学校に65億、70億とかかってしまうわけですね。

それと、学校を新しく小中一貫ができるわけなのですけれども、先ほど畑中委員も言っていたのですけれども、説明会を開いたりしていただいて、私たちもいろいろ町民からいろいろ聞かれるところがあるので、答えられる、できれば答えていきたいところもあるのですけれども、それがなかなか答えられないところがあるので、そこら辺はよろしくお願いいたします。

あとマラソンについては、目玉の選手が来てもらえればいいかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（橋本和之君） いいですか。

○委員（金子浩二君） 僕からはいいですが。

○委員長（橋本和之君） では、ほかに質疑のある方いらっしゃいますでしょうか。

柿沼委員。

○委員（柿沼英己君） 214ページなのですけれども、教育振興事業で東小と西小、大体横並びの額

なのですけれども、これは160万ぐらいずつ出してくれよみたいな感じで指導してやっているのですか。どういう形でやっているのか、その辺をお聞きします。

それから、一般質問でもやらせていただいたのです、A L Tの事業なのすけれども、例えば小学校の英検の5級でしたっけ、その辺の合格率を上げるとかそういった交渉とかあるのかどうか、具体的にお願いいたします。

○委員長（橋本和之君） 回答の順番は前後しても構いませんよ。

森田局長。

○教育委員会事務局長（森田晃央君） ちょっと確認しながらで恐縮なのすけれども、先ほど柿沼委員から話がありました214ページの教育振興事業の中の東小学校の教育振興事業と西小学校の教育振興事業の金額がほぼ同じということなのすけれども、こちらに関しましては、内訳を見ていただくと、金額の差は出ているのですが、積み上がった結果として金額的に同じような数字になっているということです。結果的には、この中の項目は金額の差異が出ているなのすけれども、積み上げた結果として同じになっているということでご理解いただければと思います。

そして、英検の合格率アップということで、過日一般質問にもありましたけれども、本町といたしましては、もちろん英語教育、いろんな仕掛けをしながら英語と触れ合う、常に日頃英語の言葉を感じるという部分の中で、過日もちょっと話があったと思いますけれども、文教民生常任委員会の皆様も放課後英語教室に来ていただきまして、楽しんでやる気をとといいますか、楽しみながら英語に触れていただく事業を行っております。その中で、英検の第2回目を本町では検定料を無料にしておりますけれども、無料だから、どんどん受けなさい、みんな受けなさいと言ってしまうと、過去の英検の推進の仕方ではないけれども、英検はただだから受けなさいよというのだと、ちょっと本末転倒な部分もありますので、それちょっと徐々にひもといいきながら、英検の合格率を上げていければと思っております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 柿沼委員。

○委員（柿沼英己君） 教育振興費なのすけれども、内容を見ると、東小が教材用の備品が66万で、西小が29万ですか、これは先生の希望でこの教材が欲しいということでやられたのかどうかをお聞きします。

それから、具体的な展望が見えないのだけれども、楽しみながらやるというのはいいなのすけれども、まずA L Tの人数ですか、境町の例で言うと、ちょっと人数も違うし、あとカリキュラムをちゃんとつくってやっているということで、検証されるというのがいいのではないかなと思うなのすけれども、いかがですか。

○委員長（橋本和之君） 森田局長。

○教育委員会事務局長（森田晃央君） ご質問にお答えいたします。

まず、学校関係なのですけれども、必要な備品につきましては、学校からこういうものを購入するので、この予算をお願いしたいということで、その依頼に基づいて計上させていただいている状況でございます。

そして、英検絡みですけれども、ALTにつきましては、本町では5人お願いしている部分がありますけれども、更に境町がどんな状況なのか、これに関しましては、日々教育長のほうが境町の状況を確認しながら策を練っている部分がありますので、その点、もちろん一参考として境町は気に掛けている自治体でございますので、今後調査研究させていただければと思います。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 柿沼委員、どうぞ。

○委員（柿沼英己君） 先生の希望でということなのですけれども、これを見ると、東小の先生のほうがやる気があるのかな、そういうふうになってしまうのですけれども、いかがですか。

○委員長（橋本和之君） 森田局長。

○教育委員会事務局長（森田晃央君） 私、別に先生をかばうつもりはありませんので。ただ、そのやる気がある云々ではなくて、必要なものを上げていただいていると、もちろん上げていただく際は、事務局で査定といいますか、査定の査定をさせていただいて、喫緊のもの、ある意味それはなくてもまだ大丈夫ではないですか、求められるものを全て予算に計上してしまうと、本当に欲しいものと必要なものというのは分け隔てがなくなってしまうので、その点は冷静に査定をさせていただいて、計上させているという状況でございます。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 高橋町長。

○町長（高橋純一君） 今局長が述べたように、もう数年前からスクラップ・アンド・ビルドで、欲しいものと必要なものは分けてくるということで、欲しいものは極力、それは購入しないと、必要なものは購入していくということで、これ東と西のほうを見ますと、確かに金額が西のほうが児童は多いですけれども、先生の気合の度合いではなくて、これは必要なものが上がってきたものだとは認識していただければと思います。

それと、境町と比べると、我々が境町になくて、千代田にもあるものがいっぱいあるのです。逆に、その逆も言えます。ですので、境町にあって、千代田町にはないものももちろんあります。これは、どこと比べても、いいところの自治体と比べていくのが、これは我々の自治体も成長していく上で必要かと、こう思っているのです。ですので、それを参考にしながら、我々も境町だけでなく、どこの自治体でもいろいろ視野を広めながら、その辺を参考にして、我々も予算なり実行していければと、こう考えていますので、ご理解をしていただければと思いますので、お願いいたします。

以上です。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑のおありの方いらっしゃいますでしょうか。

橋本博之委員。

○委員（橋本博之君） 町民プラザの非常用電源の改修工事が66万上がっているのですけれども、ほかのところと比べて随分安いと、多分現状あるような感じなのか、これの容量というか、どのくらいもつのかというのも詳細説明をお願いいたします。

○委員長（橋本和之君） 橋本館長。

○町民プラザ館長（橋本 稔君） 先ほどの質問のほうでございますけれども、非常用電源自家発電機改修というのが停電時の館内電源のほか、放水ポンプを動かすための発電機ということで、作動しない事例があったため、年1回作動試験が義務づけられていますが、そのときに作動不良が発覚したものということで、それに対応する内容ということで、一応お見積もりをいただいて、この額になっております。

容量のほうは、申し訳ありません、ちょっと自分の知識不足で、手元に資料がないので、お答えできないので、後日お答えさせていただければと思いますが、ご了承ください。よろしくお願いします。

○委員長（橋本和之君） 橋本博之委員。

○委員（橋本博之君） ぜひ災害用のところでもあるので、その辺はしっかりと対応してもらえと思っています。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑のおありの方は。

原口委員。

○委員（原口 剛君） 予算書の54ページで、給食費の納入金について聞きたいのですけれども、来年度から給食費無償化が実施されるに当たって、令和6年度も繰越滞納金が1万2,000円あったのです。来年度予算書にも1万2,000円と書いてあるのですけれども、これをどのように回収されていくのかというのを聞きたいと思います。

○委員長（橋本和之君） 秋本係長。

○総務係長（秋本憲利君） 給食費の滞納分ということですか。令和7年度の無償化になったとしても前年度分までの滞納分に関しましては、しっかりと徴収は行う形で考えております。その中で、通知だったり、もう提出していない方とかもいらっしゃるのですけれども、そちらのほうには行きまして、お話をさせていただける形で動いております。やっぱり二転三転、もう宛所が分からない方もいらっしゃると思いますので、そういった方は今後ご相談をしながら、不納欠損とかの可能性が出てくるかなというところなのだと思いますけれども、それは考えております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 原口委員。

○委員（原口 剛君） 済みませんけれども、よろしくお願いいたします。

○委員長（橋本和之君） いいですか。

ほかに質疑のある方。

森議長。

○委員（森 雅哉君） こども園で使用済みのおむつの回収が始まっていたと思うのですが、ごみ箱の大きさとか、あと夏場の臭いとか、そういうので今のところ順調にしているのか、あるいは新たに何かやったほうがいいものがあるのかどうかをお聞かせいただきたいのと、あと232ページの図書館の雨漏りの件、毎年ちょっと聞いているのですが、今度小中一貫校の中、図書館できるとかできないとか分からないのですが、今の山屋図書館自体はずっと継続して、建物として使用しますので、雨漏りの件、この予算、何か大きなものがあつたら補正でいくのかどうか分からないのですが、現状を教えてくださいと思います。

それと、タブレットの廃棄で新規で買う件なのですが、Appleが結構高いというのがあるって、Googleのとかいろいろ調べていращやと思うのですが、それを機種変更、非常にOSが変わりますので、そういうのともうずっとAppleならAppleで続けなければいけないのか、あるいは価格がやっぱりどうしても高いと、性能的に変わらないのであれば、安いほうという選択ができるのかどうかというところを調べた結果などあれば教えていただければと思います。

○委員長（橋本和之君） 高山園長。

○東こども園園長（高山真美君） ご質問のほうにお答えさせていただきます。

おむつの回収が始まりまして、保護者の方はとても楽になったということでご意見いただいております。おむつの回収のごみ箱の大きさについてなのですが、適した大きさを購入していただいたので、今のところおむつがあふれ出るようなことはなく、きちんとされております。そして、夏場のほうもきちんと蓋が閉まるタイプですので、臭いの漏れなどはなく、今のところは順調に進んでいるかと思います。

○委員長（橋本和之君） 栗原館長代理。

○図書館館長代理（栗原弘明君） 図書館の雨漏りでございますが、今までの議員さんをはじめ、いろいろご指摘を受けていたものがございます。今回のところ原因箇所がある程度特定をできましたので、今回が最後となるように私も努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（橋本和之君） 秋本係長。

○総務係長（秋本憲利君） タブレットの機種変更についてご説明させていただきます。

今回考えておりますのは、同じくiPadで考えております。こちらにもいろんなChromebookだったり、Windows等々の機種に関して検証いたしました。東毛地域の中でも会議の中で、千代田町以外はChromebookを使用してしたりしております。その中でお話を聞くと、故障率が、千代田町はタブレットを落としてしまった、画面が割れたという故障以外、基本的にはない状態です。なので、令和6年度の実績としても一台も故障ということでやっておりません。ただ、Chromebook、他社のことを言ってしまうとあれなのですが、実績がありますので、その実績の中でいきますと、やっぱ

り故障率がかなりありまして、費用も100万を超えるような故障の代金を払っているというものです。その中で、今回群馬県で共同調達する中で、i P a dにその利点を求めて変更しているところもございます。なので、明和町もi P a dにするということで、うちのほうにも話がありまして、どうなのだろうという話はして、利点が多いよということで、やっぱり高い分いいよということで変更するというをおっしゃっておりました。なので、その中でもやっぱり費用が高いというのは実際にありますので、今回プロポーザルで、県のほうで決まった業者さんと話をしながら、タブレットを使うにしてもセッティング等々もありますので、そういった中で費用をなるべくご相談させていただいて、安くいいものを取り入れられたらと思っております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 森田局長。

○教育委員会事務局長（森田晃央君） タブレットの関係で、秋本係長から説明があったとおりなのですが、本町におきましては、子供たちのタブレット端末より前に先生方は既にもう、多分歴史でいうと、10年以上前からタブレットは使って、自治体によっては電子黒板導入してというところがあると思うのですが、本町の場合は大きな場面にA p p l e TVとか、そのA p p l e社製の附属品を構築しまして、それでタブレットで事業をやっていたということもあります。そういった周辺機器もそろっているということも含めまして、A p p l eがいいとか悪いとかではなくて、ただ故障の関係も、やはり使い勝手も総合的に考えますと、継続的にi P a dということで判断をさせていただいている次第です。

以上です。

○委員長（橋本和之君） よろしいですか。

ほかに質疑のおありの方。2周目である方もどうですか。なしでよろしいですか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（橋本和之君） 議長、大丈夫ですか。

○委員（森 雅哉君） はい。

○委員長（橋本和之君） はい、分かりました。

では、以上で教育委員会所管の審査を終わりにしたいと思います。大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。説明員の皆様はご退席お願いできればと思います。

それでは、ただいまから10時45分まで休憩にしたいと思います。

○委員長（橋本和之君） では、説明が終わりましたので、これより質疑に入りたいと思います。

質疑の際は極力該当ページとかがあれば、そこを示して質問していただけるといいかなと思いますので、お願いいたします。

では、質疑をお願いしたいと思います。

畑中委員。

○委員（畑中弘司君） 78ページにあります、先ほどご説明いただいたのですが、地域情報システム推進事業というものの、L G W A N ですよ、この使用料なのですが、昨年、先ほど説明あったとおり、今年は増額になるよということなのですが、先週の補正でこういったところマイナスになっていたりしていたのですが、その要因というのはどんなところにあるのかというのが1点質問させていただきたいことと、本年度なかさと拠点整備事業というものが88ページのほうにあるのですが、下のほうに計上されております。この設計の内容とかについて分かる範囲で結構です。もし言えないところは結構ですので、その辺分かる範囲で結構ですから、ご説明いただけますか。

○委員長（橋本和之君） 近藤係長。

○広報情報係長（近藤雅人君） それでは、質問にお答えさせていただきます。

たしかに令和6年度3月補正にて、L G W A N 回線の通信料保守管理委託料、L G W A N 関係機器使用料について減額をしております。令和6年度当初予算の時点では、第四次L G W A N 回線から第五次L G W A N 回線の移行について6年の10月に切替えを予定をしておりました。しかし、L G W A N 回線を使用するシステムの利用開始日が当初予定していた令和6年12月から令和7年4月に予定日が延期となりました。第五次L G W A N 回線への切替えには基幹系システムの標準システムの移行に伴いまして、どの自治体もいずれは実施しなければならないものではあります。こちらの回線について、令和6年10月から2月までの利用開始日を延期したことによりまして、費用負担がその間の期間を軽減されたことによりまして減額となっております。令和6年度3月補正では、回線移行に伴う通信費、業務委託費、機器使用料を減額いたしました。令和7年度当初予算については、12か月分計上している経費については毎月の保守管理費、機器使用料となっております。第五次のL G W A N 回線については、これまでの回線よりも第四次L G W A N 回線というものが都道府県モードと、10メガバイト回線だったものを第五次L G W A N 回線では冗長化させまして、また直接接続の回線となり、100メガバイトのものと増強するため、費用的に負担する金額が増加するというものになってございます。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 木津川係長。

○政策推進係長（木津川雅君） キャンプ場の設計のご質問に対してお答えいたします。

まず、今度事業者決定を4月に予定しているのですが、そのプロポーザルを来週から実施いたします。公募自体は来週始まるのですけれども、そのプロポーザルをする前にこういったキャンプ場の運営の実績がある事業者は3社、4社ほどお話を聞いて、ちょっと情報収集をしたところ、大体設計費というのは2,000万円ぐらいあれば足りるということで、今回この金額を計上しています。

内容については、やっぱりプロポーザルをして、その中で決めるので、こういったものになるかというのはまだお話しはできないのですけれども、最低限グランピング施設でしたり、あとは管理棟だったり、そういったものは最低限設置をして、更に魅力を発揮できるような設計内容のものを採択したいと考えておりますので、具体的な内容については4月以降にお話ができると思っております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 畑中委員。

○委員（畑中弘司君） まず、地域情報システム推進事業の件は理解できました。行政として必要な情報システムということでご説明いただいたと思います。

2つ目のなかさと公園の拠点整備事業なのですが、今回説明のあったとおり設計に入る段階だよというところなのですが、まず自分少し危惧しているのがああいうところ、やはり今後できてくると、町が開発する場所とかここだけではないのです。いろんなところ開発されていますよね、千代田町では。そういったところでやはり早いうちに地元の賛成といいますか、地元の感触というのをつかんでおかないと、今後開発するのに非常に妨げになってしまうような可能性もあります。そういったこともまず調査していただきたいことと、あと駐車場関係ですよね。この事業に付随して駐車場はあるかなと思うのですが、今現在なかさと公園駐車場が非常に足りない状態にもあります。そういったところで、もし今現状確認できるところで、今後駐車場は用地を変更して使用できる場所、そういったところも調査していただきたいと思っております。周りには遊休農地とかそういったものも恐らくあると思うのです。そういったところを町で買えとは言わないので、借りて使用することで、町の政策に、課は違うのですけれども、非常に一緒に伸びていくような形になると思いますので、ぜひともそういったことも配慮しながら、今回設計のほうをやっていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 言わなくて大丈夫ですか。

木津川係長。

○政策推進係長（木津川雅君） ありがとうございます。

今そのプロポーザルをするのに、採点項目としまして、うちのほうでは既存の利用者さんとのちゃんとすみ分けができるようにというのを項目にしてはいるものの、ご指摘いただいたとおり近隣の住民の方とかに特別に説明とかというのは今していないので、そういったものも考えていかななくてはならないのかなと今感じました。

あと駐車場については、一応今群馬県と調整していて、県が持っている場所をちょっとお借りでき

ないかということで進めておりまして、今は順調に進んでいるので、そちらで今回整備する駐車場というのはキャンプ場に限らず、既存の利用者の方にも使っていただける駐車場ということで考えておりますので、駐車場の点ではかなり拡充できて改善できるのかなと思っておりますので、よろしくお願いします。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑はありますでしょうか。

大谷委員。

○委員（大谷純一君） 予算に絡めた上で、特に数字ではないのですけれども、ふるさと納税についてお伺いします。

一応24億だっけ、なのですけれども、去年のときにいろいろ駅にチラシを貼ったりとか広告面で貼ったり、あとはポータルサイトを皆さんが利用するほうにシフトしたりというので、だんだん増えてきたと思うのですけれども、来年度はその辺の戦略というか、その辺をどう考えているかというのと、あと前も再三申し上げて恐縮なのですけれども、競合しているところがあるでしょう。どことは言わないのですけれども、熊本。それに対して戦略というか、だんだんだけけれども、前も言ったけれども、既製品というか、基幹工業製品だと、同じものだったら安いほうに流れるというのが鉄則なので、そこは例えば1,000円でも安いという、そっちに流れていって、千代田の分が減るというのは大いに考えられるところで、危惧するところなのですよね。それを例えば私がちょっと申し上げたのは、千代田は千代田オリジナルの何かができれば、千代田でしか手に入らないビールというふうにすれば、それはそれで需要というのがあると思うという話はしたと思うのですけれども、その辺戦略というか、どう考えているのかと、来年度の予算も含めて、その辺をお伺いしたいと思います。

○委員長（橋本和之君） 木津川係長。

○政策推進係長（木津川雅君） ありがとうございます。

ふるさと納税に関する内容なのですけれども、まずプロモーション戦略につきましては、来年度についてはまだこれも確定はしていないのですけれども、今進めているのが千代田線、地下鉄の千代田線があります。あちらが通勤であったりとか、かなり利用者が多い路線になるのですけれども、あちらの千代田線のほうの車内ですとか駅のほうにプロモーションしようと考えています。それちょっと千代田つながりということで、今内容を……

〔「べただけどね」と言う人あり〕

○政策推進係長（木津川雅君） はい。考えているのですけれども、ちょっとこの場であまり言うとううなのだろう。分からない。反対が……

〔「大丈夫だよ」と言う人あり〕

○政策推進係長（木津川雅君） 大丈夫ですか。

〔「はい、はい」と言う人あり〕

○政策推進係長（木津川雅君） 千代田線ってすごく都会の路線ですよ。そこで今の千代田町と千

代田線というのをちょっと対比したプロモーションを行う予定があります。そちらは寄附獲得というよりはシティプロモーションという考え方で実施をする予定でして、どちらかという、千代田町といたら、サントリーの工場があるほうの千代田町というような認識を持っていただけるようなプロモーションを考えております。来年度の予算の中でのプロモーションについては、どちらかというやはりネットの広告のほうに比重を置こうと考えております。昨年度、今年度と、実験的にいろいろな広告を試した中で、効果が高いと感じているものを選別して行いますので、来年度、さらに寄附を伸ばせるようにいろいろ頑張っていきたいと思っております。

2つ目の熊本対策のところなのですが、実は今年度伊藤さんが来ていることもありまして、かなりサントリーさんとうちの結びつきというところが強化されました。そんな中で、サントリーさんってエリアごとに営業の担当がおりまして、うちは関東甲信越ということになるのですけれども、そこから九州の営業がどんなことを考えているのかとか、どんな戦略を立てているのかというのは結構情報をもらって、対策を今もしていますし、そんな感じで進めていこうと思っております。値段のところなのですが、実は今月からちょっと熊本を出し抜いて、500円下げという暮らし応援キャンペーンというのをやっております。それのおかげでここ最近のポータルサイトのランキングを見ると、大分熊本勢を閉め出しできております。かなり寄附は取れていて、2月、3月、かなり前年比で伸びている状況です。

あとは、オリジナルの部分なのですが、こちらはサントリーさんに協力をしていただいて、レビューキャンペーンというのを実は実施しました、今年度は。何かというと、レビューをしていただくと、コースターがもらえるというキャンペーンをやったのですけれども、すぐにちょっとまねをされてしまって、熊本も実は同じことを後から始めてしまいました。そんな形で、うちのほうはなるべく周りのライバル自治体と言われるものを見ながら、そこより先手先手で動いていこうと思っておりますので、引き続きそんな形で頑張っていきたいと思います。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 大谷委員。

○委員（大谷純一君） なかなか社内でのリーク合戦になっているのかどうか分からないのですが、熊本の情報が漏れるということは、こっちの情報も漏れていると思うので、それいろいろ考えなくてはいけないと思うのですけれども、今千代田線とおっしゃったのですけれども、千代田線って北綾瀬から北千住を通して丸の内というか、あっち行くのですけれども、単純に素人的に思うのは、いわゆるコロナ禍で、例えば新橋の飲み屋行かなくて家飲みになった。それで、重いものが宅急便で届くので、需要が増えたとなると、私は、やっぱり都内であれば、東横線とか小田急線の結構富裕層的サラリーマンが住んでいるところに戦略を打ったほうがいいのかという気はします、井の頭線とかその辺も。だって、お金を出してくれる人たちではないとふるさと納税できないわけだから、収入がないと。その辺はやっぱり東京の高級サラリーマン層がいるところに戦略を打っていったほうがいい

のかなというのはいいます。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 高橋町長。

○町長（高橋純一君） ふるさと納税のほうの戦略はこの企画のほうでいろいろやっていますけれども、皆さんも昨年の12月のときにNHKの「630」を見た方もいると思うのですけれども、私が出て、あとは小池知事が出て、もう一人千代田区の区長でしたっけ、が出て、私抜いた2名はふるさと納税に反対の方のインタビューです。あれご存じのように、そういう千代田区にこれから殴り込みでないのですけれども、これから掛けていこうと、この戦略は非常に素晴らしいと私は思っています。あそこを考えてみますと、人口は7万人ぐらいしかいないのです。7万人で、基金の総額は1,000億円近くありますから、もうすごい自治体なのです、千代田区というのは。国内で中心になる施設がいっぱいあります。そこで昼間はいっぱいいろんな人が来ると思うのです。千代田線もちろん乗るわけですよ。そう考えていきますと、そこに我々のPRのためにシティプロモーションをやって、そこで戦略をいろいろ練った中でやっていて、それが功を奏するかなというふうには私は信じているのですけれども、その辺の戦略は企画のほうが練ってやっていますので、ぜひ期待していただければと。

その上で、今回の25億だったかな、最初の段階で25億のふるさと納税のこれを計上させていただいたという状況でありますので、よろしく理解していただければと思います。

○委員長（橋本和之君） いいですか。

ほかに質疑のおありの方。

金子委員。

○委員（金子浩二君） ふるさと応援寄附金が今年度も30億を保持したということなのですが、来年度から新しい仕組みですか、また30億の上に行くために何か考えているか、返礼品とかも何か考えているか、あったら分かる範囲で、答えられる範囲でお願いします。

○委員長（橋本和之君） 木津川係長。

○政策推進係長（木津川雅君） 来年度の新たな仕組みということですが、一番最初に課長のほうからちょっとお話をしたのですけれども、新たな返礼品開発に関わる機器の購入ですとか資格取得なんかを補助するというものを来年度から始める予定です。こちらの補助率が5分の4で、上限100万円ということで実施する予定でして、今新しい返礼品ということで営業活動を行っています。これもまだ実現していない話なのですけれども、やっぱり今お米に関して、ふるさと納税でかなり需要があるので、千代田町これだけ田んぼがありますので、お米のところで何かできないかなということで今情報収集をしているところです。

そのほか、結局は返礼品、新しい返礼品を出すことというのは総務省の許可が最終的には必要になるので、いろいろ作文をしながら総務省にアタックしているところですので、新たな返礼品というのは間違いなく増えますし、どんどん、これからも取り組んでいきたいと思っておりますので、だんだ

んにいけると思いますので、よろしくお願いします。

○委員長（橋本和之君） 金子委員。

○委員（金子浩二君） ちなみに、サントリーは1番ではないですか。2番とか3番とかというのは何か変更があったのですか、順位は。

○委員長（橋本和之君） 木津川係長。

○政策推進係長（木津川雅君） 昨年度と今年度は大体同じぐらいでして、ジャンルでいいますと、やはり日用品が強いので、2番目に注文が多いのがマルフクケミファさんの柔軟剤になります。あとは、ハンバーグでしたりイチゴでしたり、その辺りが上位に来ております。

○委員長（橋本和之君） 金子委員、いいですか。

○委員（金子浩二君） はい。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑のある方。

副委員長は大丈夫ですか。

○副委員長（大澤成樹君） ちょっとありません。

○委員長（橋本和之君） では、2周目でも構いませんので、質疑のある方。

酒巻委員。

○委員（酒巻広明君） 確認で教えていただきたいのですけれども、88ページの一番上の点の観光振興と定住促進に関する部分で広告料というのは多分例年どおりなののですけれども、この内容を教えていただきたいのと、あとは事業、令和7年度の事業事務指針の部分で、SNSを、公式LINEを活用していくという部分があるのですけれども、太田市のほうも始めたのかなという部分で、ちょっと太田市のLINEのほうを見させていただくと、お住まいの地域だとか知りたい情報という部分で幾つか選択できるような感じになっていて、比較的欲しい情報が得られやすいのかなということがあるのですけれども、その辺で多分千代田とちょっとやり方が違うのですけれども、そのLINEに関してオプション代を払っているから、太田のほうの中身が違うのか、その辺お聞きしたいのですけれども。

○委員長（橋本和之君） 木津川係長。

○政策推進係長（木津川雅君） では、私のほうから広告料についてご説明させていただきます。

広告料につきましては、先ほど大谷委員からご質問いただいたプロモーションの内容になります。ふるさと納税と移住を絡めたようなプロモーションを打っていく予定ですので、よろしくお願いします。

○委員長（橋本和之君） 近藤係長。

○広報情報係長（近藤雅人君） LINEの回答になります。

千代田町で運用しています公式LINEについては、Bot社という会社のシステムを利用しております。多くの自治体で利用されているシステムということで採用しておりましたが、1個1個の機

能については、自治体の職員が開発するようなものとなっておりました。その中で千代田町が現在公開している機能については、役場の職員のほうで開発したものとなっております。

オプション機能というところでは、そのシステムの使用料のほかに支払う必要は出てくるものもございます。欲しい情報ということでセグメント配信として、千代田町も最初にLINEを登録するときに、欲しい情報について登録する画面がございます。その中で安全安心メールといったものも必要であれば、得られるというような機能も千代田町も掲載しておりますので、そういった中でどういった情報が今後必要か、どういったニーズがあるかというところは、アンケートを取りながら、千代田町もどういうものが必要か調査しながら今後運用していきたいと考えております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 酒巻委員。

○委員（酒巻広明君） 広告料は大体先ほど大谷委員の部分なのかなと思ってはいたのですが、ありがとうございました。

LINEに関しては、比較的登録者数というか、LINE自体を活用している人が多いと思うので、なるべく町民の方には登録していただいて、町の情報発信という部分で広めていっていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑のおありの方。

柿沼委員。

○委員（柿沼英己君） 自治体DXですか、デジタル・トランスフォーメーションですか、これは千代田町としてはどれぐらい進んでいるのか、その辺の状況を教えてもらえるか。他所の自治体だと、かなり進んでいるところと進んでいないところあるのですけれども、その辺の違いとか教えてもらえれば。

○委員長（橋本和之君） 近藤係長。

○広報情報係長（近藤雅人君） DXの関係での質問の回答となります。

千代田町では、最初に始めた内容がLOGOフォーム、電子申請システムの運用をまず開始したところがありました。これについては、県内でも3番目ぐらいの順番というか、先駆けて進めたところもあり、その部分については県内でも進んでいた内容でございました。今でもLOGOフォームについては利用されておまして、商品券であったり、健診であったり、アンケート、そういったもので累計で1万1,000件程度利用されております。この部分では職員もふだんから利用することが多く、町民の皆様にも公開する手続としては大分進んでいるようなところがございます。町の広報紙などもご覧いただければ、QRコードが多く掲載されていることと思います。そちらについては、このDXの最初で進めさせていただいた電子申請システム、こちらを利用するものでありますので、一度広報紙ご覧いただければと思います。

そのほかはビジネスチャットツールというものも職員で利用しております。令和6年度に本格運用

開始したところでございますが、危機管理といった部分でまず導入を開始したところがあります。職員全員が、L o G o チャットと言われるビジネスチャットツールをパソコンと自分が所有するスマホにインストールして普段から利用しているものです。こちらについては、災害があったときに連絡がつく手段として利用すると、そのほか業務中に電話、こういったものは時間を削減するといったところも含めて利用されているものです。チャットで用が済むものであれば、チャットでするようにといったところ、年間でも電話の時間が随分削減されて、業務時間が削減されているのではないかなと思います。

そのほかでA I 議事録についても今回令和7年度予算で予定しております。こちらでも群馬県であったり、太田市、邑楽町、そちらで導入実績のあるAmiVoiceと言われるシステムについて来年度早々に取り入れる予定でございます。今千代田町で導入しているものよりも精度が高いというものとなっておりますので、そちらについても導入を進めていきたいと思っております。一般的にD Xとして言われているものについては、千代田町もどんどん積極的に導入を進めております。ほかの自治体でもD X計画というようなものもございますが、それに負けじと千代田町も進めております。そのほかなのですけれども、外部デジタル人材と言われるようなところで、館林市さんであったり、明和町さんですか、ほかの企業での実績のある方のお力を借りているというところもありますが、千代田町では外部の企業ではなく、群馬県庁の職員さんのお力を今借りておりまして、月に1回程度、千代田町に来ていただきながら、D X化の支援をしていただいております。

以上となります。

○委員長（橋本和之君） 柿沼委員。

○委員（柿沼英己君） 努力してもらっているというのは分かりました。

館林市なんかは電子受付でシステム化、そういうのをやっていると思うのですけれども、それについてどういうふうに評価していますか。

○委員長（橋本和之君） 近藤係長。

○広報情報係長（近藤雅人君） 館林市で導入しているのは窓口D Xということで、住民窓口の部分で書かない窓口というようなものを導入している部分がございます。そちらについては、窓口利用している基幹業務を扱うシステムと連携させて行うことが望ましいと考えております。そこについては、基幹系業務と言われるシステムが令和7年度に大きく変更があるというところで、今そのシステムの導入についてはしないと、令和8年度以降検討していきたいと考えております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 高橋町長。

○町長（高橋純一君） 館林市が書かない窓口ということで昨年から始めたのだと思うのですけれども、我々のところも令和7年度は書かない窓口、今議員が述べたのは多分そのようなことだと思うのですけれども、D Xを活用して、それを書かない窓口という方向の話だと思うのですけれども、それ

については、我々、これ令和7年度の段階ではまだ予算的には盛り込んではいないですけども、その辺も含めた中で、周りの状況も踏まえた中で、自治体の状況を踏まえた中でその辺も検討していく必要があるかなというふうに考えています。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 大丈夫ですか。

ほかに質疑のある方。

茂木委員。

○委員（茂木琴絵君） 本当非常に細かい話で申し訳ないのですが、54ページにあるゆるキャラグッズの件なのですが、昨年度より販売の収入が少ないということなのですが、これからやはり小さい子たちはみどりちゃんというのが非常に人気なので、そういうものを活用して何かを打ち出していくとかということは考えているのでしょうか。例えば今ツイッターではない、X上では千代田町のアカウントがありますけれども、例えば樹里ちゃんとかみどりちゃんの成り切りではないですけども、樹里ちゃん、みどりちゃんのキャラクターがやっているような形のアカウントをやって、例えばですけども、桜まつりで今度コスプレとかやりますよね。その場合には、安直な考えですけども、みどりちゃんの視点でこういうのがありましたみたいな形の写真であったりとかというのを載せて広報をしていくとかという考えはあるのでしょうか。クロネコヤマトのLINEをすごく使うのですが、あれってクロネコヤマトで非常に便利なのは配達した日にちとかを書いたりとか、ぽちっと押したりすると全部この日に来ますとあるのですが、たまにそこで「ありがとうございます」と入れると、相手も「またご利用くださいにゃ」と返してくれたりとかするのですよね。だから、そういう変換方法みたいなのは多分システムであるのでしょうか。例えばみどりちゃんだったら、何とかだちよみたいな形で返すようなアカウントを作るとか、そうすると今のはちょっと堅いイメージなので、一気に下がる気がするのですよね。そうすると、多分あそこ変な面白いやつがいるみたいな形で見ていただけるのかなという気がするのですが、そのような感じのキャラクターを利用した発信であるとかというのは今の状態以上のことは考えているのかをお聞きしたいと思います。

○委員長（橋本和之君） 木津川係長。

○政策推進係長（木津川雅君） みどりちゃんについては、正直ちょっとゆるキャラ自体がもう大分下火になっているなど感じていて、注力はしていない分野になってしまいます。ゆるキャラグッズの売り捌き料が下がっているというところでいいますと、こちらも今年度の途中までは会計課の窓口で販売はしていたのですが、いろいろ機器が会計窓口に入ることによって、もう置く場所がなくなってしまって、グッズのほうも今年度の産業祭で抽せんの景品にしたり、そういった形で結構お配りをしてしまいました。現状ここで載っている8,000円というのは、今明和町の川俣駅前のメイちゃん家というところで委託販売をしてもらっているのですが、その売上げのみを計上しております。ゆるキャラを活用したまちづくりというところでは、先ほど私、下火になっているという話はしたので

すけれども、いまだにそれが現役でコアなファンといいますか、そういうのをつかんでいる自治体もごいますので、そういったものも今後の課題と考えていければと思っておりますので、よろしくお願いします。

あとコスプレのほうは今回みどりちゃん、樹里ちゃんの参加はないというふうになっておりますので、またそちらも今後いろいろな町のイベントでは着ぐるみであったりとか、先ほどのSNSのみどりちゃんの視点ではないですけれども、そういったアイデアもちょっと研究をして取り入れられたらいいのかなとは思っておりますので、よろしくお願いします。

○委員長（橋本和之君） 大丈夫ですか。一般質問でもよかったような感じでしたね。

ほかに質疑のある方。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（橋本和之君） いない。2周目も大丈夫ですか。本当に副委員長いいですか。

○副委員長（大澤成樹君） はい。

○委員長（橋本和之君） では、以上で総合政策課所管の審査を終わりにしたいと思います。

大変お疲れさまでした。では、ご退席をお願いいたします。

議会事務局（一般会計）

○委員長（橋本和之君） 説明が終わりましたので、これより質疑に入りたいと思います。

質疑はありまででしょうか。

大谷委員。

○委員（大谷純一君） 町長に要望なのですが、前年度だっけ、床を張り替えていただいたのですが、今回どうなるか分からないのですが、広報でも賞をもらったり、いろいろ今度視察等も増えてくるだろうという予測の下に、ちょっと天井とか見ていただくと結構ひどいものがあるので、人が来るところだけはぜひとも予算を持っていただいて、改装していただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○委員長（橋本和之君） 高橋町長。

○町長（高橋純一君） 私も前から気にはなっていました。それなので、もしこれ総務課で、これ総務課だったよね、たしか。

〔「はい、総務課です」と言う人あり〕

○町長（高橋純一君） 早速話はしておきます。ただ、今年度の予算のほうはもうこれで締めてしまっていますので、補正なり来年度なりで予算化していくのがいいのかなと、ここの天井だけではなく、ほかの部分もしあるようならば、その辺も含めて総務課の財務のほうとよく相談をしてみます。前向きに検討します。

○委員長（橋本和之君） はい、ありがとうございます。

これに追加の要望はいいですか。大丈夫ですか。

では、大谷委員。

○委員（大谷純一君） 予算が一気には無理でしょうけれども、控室の椅子、テーブルをもう40年使っているのですよね。町長の応接も新しくなったことですので、せっかくマナベさんもあるところなので、その辺も前向きに検討していただけると、議会としても大変ありがたいと思うのですが。

○委員長（橋本和之君） 高橋町長。

○町長（高橋純一君） それも含めた中で、よく一回財務のほうとよく見まして、それも含めた中で前向きに検討していきます。

○委員長（橋本和之君） ありがとうございます。

ほかに質疑のある方いらっしゃいますでしょうか。大丈夫ですか。3万円の報酬で足りるのかしら。

[「なし」と言う人あり]

○委員長（橋本和之君） 執行部から質疑とかありますか。

高橋町長。

○町長（高橋純一君） この予算書のほうに、町の公用車何台かリース形式で乗り換える部分があるのです。その部分で、今使っている公用車を視察等々で、全部であれ何人乗りだったっけ、1、2、3、4、でも6人、7人、このオデッセイ、6人、7人かなと思うのですけれども、あれ9年間乗るのです。距離数にすると、10万はっていないのだけれども、9年間乗るので、リース形式で乗り換えようと思っているのです。今回この予算にも入っていると思うのですけれども、今あるオデッセイを議会に、議会だけでなくでもいいのですけれども、町内視察とかの場合は6人は余裕で乗れるかなと思っていますには、その辺も含めた中で活用していただこうと思っています。

以上です。

○委員長（橋本和之君） では、大丈夫ですか。質疑ありますか、ほかに。

畑中委員。

○委員（畑中弘司君） 局長にご質問なのですが、今回予算を立てるに当たりまして、本年度からタブレットを導入していただいて、ペーパーレス化というのを進めていただいております。昨年と比べて、こういった紙代というところで多少なりとも削減ができたのか、このタブレット化に関しては、議会がお願いしたものですので、そういったものはしっかり結果として残していかななくてはならないと思うのですが、その辺いかがでしょうか。

○委員長（橋本和之君） 下山局長。

○議会事務局長（下山智徳君） ペーパーレス化の取組みに伴う紙等の経費削減の効果ということなのですが、まず紙、印刷用紙の予算計上に関しましては、総務課で、そちらの消耗品費等で役場庁舎内の部分に関しては一括して計上されているものかと思います。議会費では計上は行いません

ので、庁舎内での一括の計上ということになるかと思います。ペーパーレス化の削減効果、費用削減効果に関しましては、正確な数字をつかむのはなかなか難しいところなのですが、今皆さんにお使いいただいているSidebooksのシステムの機能の中で、こちらに登録したデータをクラウドで運用するに当たって、その該当するページ数を紙で印刷した場合と対比させた場合の費用削減効果というのがシステム上で計算できるような機能があります。ただ、現状は委員会等に関してはかなりペーパーレス化を進めているところですが、本会議に関してはまだ併用という形で、その削減効果が丸々当てはまるものではございませんが、こちらである程度の費用対効果については参考程度になりますが、確認することは可能かと思います。ただ、現時点として正確な数字的なものはちょっと把握できていないというのが現状ではございますが、今後は引き続き本会議等、まだ併用の状況でございますので、引き続きペーパーレス化の推進に取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 畑中委員。

○委員（畑中弘司君） 我々も少しずつ努力をしますので、その辺今年度は昨年よりかもっとデジタル化を進めるように共に指導していただきながら頑張りたいと思います。

以上です。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑ありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（橋本和之君） 大丈夫ですか。

〔「はい」と言う人あり〕

○委員長（橋本和之君） では、以上で議会事務局の審査を終わりにしたいと思います。

それでは、ただいまから午後1時まで暫時休憩といたします。

建設下水道課 （一般会計）

○委員長（橋本和之君） 以上で説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。

では、質疑をお願いいたします。

森議長。

○委員（森 雅哉君） せっかくなので、公園の設備の修繕とかそういう来年度、7年度の予定を教えてくださいいただけますか。

○委員長（橋本和之君） 山下室長。

○土木管理室長（山下明範君） ただいまのご質問にお答えします。

令和7年度につきましては、実は具体的なずばりの計画がなく、通年通しまして公園の遊具の点検というのをまた委託で別建てで予定しております。また、点検結果に応じて、危険な状態であった

り、また点検に関わらない中で、職員でも確認ができたような不具合に即時に対応させていただくような考えで予算は計上させていただいております。よろしくお願いいたします。

○委員長（橋本和之君） よろしいですか。

〔「はい」と言う人あり〕

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑はありますか。

大谷委員。

○委員（大谷純一君） メモ取らなくて大丈夫です。町営住宅の今後の見通しについてお伺いしたいと思うのですが、長良と里東があって、里東も相当古くなっていて、穴ぽつとか、もう相当抜けている人も多いのですが、町長も将来的には民間に委託するというお話もあるのですが、その辺近い将来あそこは建たないと言ったのですが、あそこは建たない土地なのですか。だんだんというの、町営住宅をもし今の状況で、どこと言わなくていいのですが、建てるとしたらあそこはやめてしまって、違う場所に建てようとしているのかという見通しは。

○委員長（橋本和之君） 高橋町長。

○町長（高橋純一君） 基本的には向こうの長良団地のほうは今募集はかけていないのです。向こうが今半分ぐらいはまだ埋まっているのですが、募集をかけていないから、向こうの方たちがいづれいなくなったり、ある一定期間を置いて、どこかに引っ越してもらうと。向こうのあその土地というのは隣の神社の持ち物なのです。それを借りているわけです。ですので、あそこはもう募集をかけないで、解体をして、返していこうと。こちらの里東のほうはもう築55年ぐらい経っているのかなと思うのです、きっと。ですので、あそのところはまだ募集はかけているのですが、もう一か所、どこかに町営住宅を造ると。ただその町営住宅を造るのは、できれば子育て世代を中心に置いていこうかなと、議会でも質問があったように、25年でしたっけ、向こうの境町が。うちでは25年ではなくて、20年になるかどうか、それは分かりませんが、そのところはいろんな部分で20年になるか、そのような方向も一つ視野に入れて考えていきます。ただ、その場所なのですが、場所がいろんな部分で今人口減の世の中ですから、なかなかそれが県の許認可の関係で許可を出していただかないと、やっぱりできないわけですから、その辺を視野に入れながら。

もう一つのあれは、あそこにいる方たちは例えば今あれが全部で、棟が幾つもありますけれども、同じ敷地内のどちらに寄ってもらって、それは半分解体するかそのようなことを考えていく必要があるかなと、近い将来には考えていきたいなと考えています。

○委員長（橋本和之君） 坂部課長はいいですか。

○建設下水道課長（坂部三男君） 大丈夫です。

○委員長（橋本和之君） 大丈夫ですか。はい。

大谷委員。

○委員（大谷純一君） 見ていまして、全室埋まっているわけではなくて、ハグラと言っているの

か分からないですけれども、なのでやっぱり町長おっしゃったように、あの敷地内で移動できるものだったら移動してもらって、半分半分というか、どっちかに寄せてもらって、解体してきれいにするというのもやっぱりこれから必要なことではないのかなと思うので、確かに一回入ってしまうと、意地でも出ないというような頑とした人が舞木でも多かったのですけれども、本当に多分相当苦労すると思うのですよ。舞木の北の公園のところのあそこは大和屋さんがどこかに貸したのだよね。それで、出ていくにしてもやっぱりおまえら地上げ屋かみたいな感じで言われたり、絶対ここから離れないんだからと言う中で、あそこを解体、整理したわけなので、その辺住んでいる人が強いと言われてしまっただけはそれまでなのですけれども、やっぱりそれは賃借の問題もありますし、その辺はやっぱり粛々と進めなくてはならないのかなと思うのですけれども、それが山下さんのときにできるように先送りしないで頑張っていたきたいと思います。

以上です。

○委員長（橋本和之君） いいですか。

ほかに質疑はありますでしょうか。

酒巻委員。

○委員（酒巻広明君） 182ページの道路維持事業ということで、6路線、舗装工事が行われる中で、町道の27号線も今年大分傷んでいるのかなというのがありながら、工事をしますよというお話があったのですけれども、全体的に言うと、ファミリーマートまで全部行くのかという部分の確認をさせていただきたいのですが。

○委員長（橋本和之君） 坂部課長。

○建設下水道課長（坂部三男君） 酒巻委員のご質問にお答えいたします。

広域農道27号線の舗装補修の場所なのですけれども、令和6年度にマナベさんの裏から約500メートルぐらい舗装を掛けさせていただいたのですけれども、元々が5年計画で、延長が2,500メートルぐらいあって、5年計画でやる予定でいたのですけれども、来年度、令和7年度、舗装の傷みの進みがちょっと早いので、5年計画でやると、多分5年たった頃にはもうすごく悪くなって耐えられない状況になってしまうということで、財政部局からご考慮いただいて、今年度分の2倍ということで、残念ながらファミリーマートさんまでは行かないのですけれども、斉藤建設さんの南ぐらいまでは行くのかなというように考えております。また、令和8年度にそこから西へ向かって27号線のほうは熊谷館林線まで舗装補修はできるのかなというふうに考えています。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 酒巻委員。

○委員（酒巻広明君） ありがとうございます。

今都市計画道路のほうも先日外側線が引かれて、いよいよ開通間近なのかなということで、当然大型車両も通るのかなというふうに思います。そんな中で、外国人の方がよく自転車なんかも乗ってい

たりとかして、車だけではなくて、いろんな方の利用が増えていくのかなと思いますので、その辺の整備をお願いしたいのと、あとはできれば歩道なんかも考えていただければいいのかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（橋本和之君） 坂部課長。

○建設下水道課長（坂部三男君） ご指摘ありがとうございます。

広域農道の歩道につきましては、かねてから議会で一般質問いただきまして、森議員さんからもいただいたりして、先日も町長から指示されまして、概算で工事費の把握をしておくべきだということで、少しはじき始めて、南側のほうも概算で少しはじいて、今度は北側ではじいてみようかなと今思っているところです。ご承知のとおり、27号線の北と南側で用水が行ったり来たりしているので、どちらに歩道をつけるべきか、ちょっと悩みどころなのですけれども、以前は少し南側の道路を使ってもらえばいいのかなとか、木崎排水の堤防敷を使ってもらおうかなんていう考えもあったのですが、どんな方法で歩道をつけるのが一番安全なのか、また効果的なのかというのを検討しながら、次年度以降整備に向けて、少し内部で検討していこうかなというふうに考えています。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 酒巻委員。

○委員（酒巻広明君） 延伸のほうまで歩道が両サイドあるので、安全第一でよろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑はありますか。

柿沼委員。

○委員（柿沼英己君） ようやく都市計画道路の邑楽千代田線の設計業務が始まるようなお話しなのですか、これは1年掛けてやるのでしょうか。

○委員長（橋本和之君） 坂部課長。

○建設下水道課長（坂部三男君） せっかく担当が出席しておりますので、眞下係長のほうから説明させます。

○委員長（橋本和之君） はい、分かりました。

眞下係長。

○道路整備推進係長（眞下憲治君） ご質問にお答えいたします。

邑楽千代田線なのですから、予備詳細設計でやや1年を見込んでおるのですけれども、早期開通を見込んでおりまして、委託期間の短縮に心がけまして、来年度予算が通過した暁には4月、5月の発注で、遅くとも来年の1月ぐらいまででやや線形のほうを定めさせていただければというふうに考えております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 柿沼委員。

○委員（柿沼英己君） これは、土地の買収とか必要になってくるのですか。

○委員長（橋本和之君） 眞下係長。

○道路整備推進係長（眞下憲治君） 土地の買収、用地の建物の補償等々が関わってくる案件でございます。件数的にはまだ申し上げられないのですけれども、用地買収の補償があるというのを明言できますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 高橋町長。

○町長（高橋純一君） 距離にしてまああの距離が、サントリーの西側に結びつけていくのですけれども、そうしますとこれ年次計画で五次計画ぐらいだったかな、たしか。

〔「三次です」と言う人あり〕

○町長（高橋純一君） 三次計画ぐらいだったか、三次計画ぐらいで、3期に分けて工事をやっていこうかなと、今年度は眞下係長が言ったように、今年度は設計業務と、あとは概算の積算ですよね。それが終わったら予算の都合で買収に入ってくると。こちら側（南側）から工事をやっていこうかなと思っています。都市計画道路、今回向こうの赤岩新福寺線がありますから、そこをこっち側から学校の建て替えもありますので、できれば中学校近辺から整備していこうかなと考えています。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 大丈夫ですか。

ほかに質疑はどうでしょうか。

畑中委員。

○委員（畑中弘司君） 先ほど来ご質問があった道路の関係なのですが、今都市計画道路、新しく建てられて、やや完成に近づきまして、周りの街路樹とかも植えていただいて、何となく雰囲気が出てきたかなと、そんなように思っております。そういった中で、本町、緑の町、植木を大切にしているのです。そのような特徴を見せるような道路の計画というのは今後考えていつているのかということをやっとだけ。今回邑楽千代田線も設計に入るところで、これからどうしてもあそこはメイン通りとなると思うのですよね。自分的には、ぜひとも千代田町を象徴できるような、そんな道路を造っていただきたいと、そんなふうに思っているのですが、そのような計画があるかどうか、分かる範囲で結構ですので、お答えください。

○委員長（橋本和之君） 眞下係長。

○道路整備推進係長（眞下憲治君） ご質問にお答えいたします。

今畑中委員のご指摘を、お声がけのとおり今延伸道路に関しましてはサルスベリを植えさせてもらっていて、邑楽千代田線に関しましても、今後やはり樹木がないというのは担当としては考えておりませんで、また町長等々にご相談させてもらいながら、よりよい樹木の剪定等々でお世話になれば

と考えていますので、引き続きよろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 畑中委員。

○委員（畑中弘司君） 町ならではの、やはり緑ってあって、今回なんかも管理費等が、木が増えたことで少し上がっていらっしゃるのかと思うのですが、ぜひとも私どもの千代田町、まだ植木業者さんいっぱいいらっしゃいます。若手もいっぱいいらっしゃいますので、そういった方にも誇れる町としても一つの要素だと思いますので、そういった企画をぜひ今回の設計のほうにも入れていただければと思います。

以上です。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（橋本和之君） ない。2周目、どうですか。一回やられた方、大丈夫ですか。なさそうですか。

副委員長は大丈夫ですか。

○副委員長（大澤成樹君） 大丈夫です。

○委員長（橋本和之君） 大丈夫ですか。はい。

建設下水道課（下水）

○委員長（橋本和之君） 説明が終わりましたので、これより質疑に入りたいと思います。

質疑はありませんでしょうか。

森議長。

○委員（森 雅哉君） 一応下水道接続して、補助金が上がって、本当にありがたかったです。ありがとうございます。ただ、補助金をいただくために、先に振り込む必要があって、うちの場合は50万円だったのですけれども、業者さんに50万円振り込んで申請して、その後でいただけるのですけれども、先に現金用意しないといけないので、できればその業者さんに振り込んでいただくような形を考えていただけると、かなり財布に優しくなりますので、法律的なこととかいろんなことがあるのかもしれないのですけれども、全額でなくてもいいので、少し考えていただけると助かるなと思っております。補助金制度は本当に感謝しております。ありがとうございます。

○委員長（橋本和之君） 坂部課長。

○建設下水道課長（坂部三男君） ご質問にお答えさせていただきます。

接続、ありがとうございました。令和6年度の途中から補助金の額を増額させていただいて、皆さんにも大変喜ばれて、本年度、接続補助金を活用された方の接続8件だったかなと思います。その振

込の方法なのですけれども、一応かかった費用に対しての振込ということで、どうしても業者さんに支出行為が発生しないとお支払いができないというところで、やはり一旦工事費を業者さんに払っていただいて、施主さんのほうに、どうしても町から振込という形を取らざるを得ないところでございます。また、そういった要望があったということで、会計管理者と相談をしながら、また財務規則等を見ながら、改善ができるようであれば改善できるように検討していきたいと考えております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） よろしいですか。

ほかに質疑はありますでしょうか。

金子委員。

○委員（金子浩二君） すみません。下水道の件なのですけれども、八潮市のほうで道路が陥没して、下水道にトラックが落ちてしまったのですけれども、本町の下水道事業では大丈夫なのですか。まだ管が新しいから、大丈夫だと言ったのですか。大丈夫ですか。

○委員長（橋本和之君） 齋藤係長。

○下水道係長（齋藤正直君） ご質問にお答えいたします。

昨今埼玉県のとこでそういった事故が起きておりまして、群馬県でもそういった案件に関しての調査とかは各市町村に関して連絡等が来ております。本町に関しましては、埼玉県ほどの管、あちらのほうでは管がかなり大きな管であるかなと思うのですけれども、本町では潰れてもいいというわけではないのですけれども、200もしくは150、20センチもしくは15センチの管が入っています。また、実際にはそれほどまだ管自体が古くはないので、調査は来年度進めていこうと考えておりますが、現在のところではそのような状況は発生しておりません。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 坂部課長。

○建設下水道課長（坂部三男君） ちょっと補足で。千代田町の下水道事業が平成の1桁、4年ぐらいから工事が始まっていて、最初の頃からすると、もう30年以上たっているということで、今でさえ塩ビ管を使用しているのですけれども、当時は銅管はなかったですか、塩ビ管ではないものをというふうにも記憶しています。

八潮市の事故があってから、一応日頃から建設下水道課の職員については、現場にいたときに道路陥没とか、あと穴とかがあったときにはすぐに対応するようにという指示は出しているのですけれども、同じく全庁的に職員が町外に出たときに、そういう道路陥没等があるときには速やかに建設下水道課へ報告してくださいというお願いをさせていただきました。なので、八潮市ほどのああいいう大災害ではないかもしれないのですけれども、やはり埋設している管ですので、舗装の下がどういうふうになっているかというのは想像がつかないというところで、まずは表面上危ないような危険性があるようであれば、すぐに報告してもらって、報告を受けたら、速やかにその場所に行って、何らかの

施策、対応したいというふうに考えております。

○委員長（橋本和之君） よろしいですか。

ほかに質疑はありますでしょうか。

畑中委員。

○委員（畑中弘司君） 齋藤係長も最後の年ということで質問させていただきます。すみません。

収益的支出、資本的支出、いろいろ分けられて、会計システム、非常に難しくなっている中で、全体を見ると、なかなか黒字で運営するのは難しいような、こういった事業なのかなと、そんなふうにも感じているところでございます。そんな中で、町の主要部分にはこの公共下水道の設備というのは大体終わったのでしょうか。あとどのぐらい必要としているのか、その辺についてご質問させていただきます。

○委員長（橋本和之君） 齋藤係長。

○下水道係長（齋藤正直君） そうしますと、整備状況というか、整備率みたいなことでよろしいでしょうか。

ご質問にお答えいたします。今現在、令和6年度、3月末ではないのですが、3月現在ということで認可の区域として、全体で工事をしなければならないところに関して138ヘクタールのところ、今現在が129.78ヘクタールで整備されている状況になっております。残り、あとそのようなもう少しというか、の状況になっております。

以上でございます。

○委員長（橋本和之君） 畑中委員。

○委員（畑中弘司君） 長きにわたり、恐らく齋藤係長、下水道、最初からこの事業に携わっていたいて、最終的にもうちちょっとというところまで来たのかなと、そんな気もしているところであります。

補助金に関しても先ほど森議長の質問のときにあったのですが、非常に補助金の額が手厚くなったという印象を受けて、こういったことをしながら、下水道の使用率というのを上げていかななくてはならないと、そう思っております。そんな中で、今回補助金を1,000万と少し、予算のほうで盛り込みました。何件ぐらい、今年度は目標とされていますでしょうか。

○委員長（橋本和之君） 齋藤係長。

○下水道係長（齋藤正直君） 来年度の予定数として1,000万円ですか、の感じで、予定見込み数として20件、最大50万円と見て、20件を見込み数として計上しております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 畑中委員。

○委員（畑中弘司君） ぜひこういった、前とは違って非常に高い補助率のある事業でございまして、しっかり町民にもここをPRをしながら進めていっていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 高橋町長。

○町長（高橋純一君） この下水道事業は補助金事業でありまして、これをずっと計画を練って、全域にというのが当初の計画だったのだと思うのです。ですけれども、これをずっと全域に渡していくのだと、下水管を伸ばしていくのは相当かかってしまうわけですね。国の補助が令和8年でしたっけ、令和8年で打ち切りというのが数年前にこれが打ち出されまして、計画を立て直したわけですね。補助金がつくうちに、早いうちにやっけてしまおうというので、ここ数年で排水管を使用できる面積を広げていったというのが現実なのです。ただ、国も令和8年で打ち切りと言うけれども、それが延長する可能性もあるということなのです。ですので、計画表を臨機応変に我々も対応して、計画を練り直したというのが現実になります。

以上です。

○委員長（橋本和之君） よろしいですか。大丈夫ですか。

ほかに質疑はありますでしょうか。

[「なし」と言う人あり]

○委員長（橋本和之君） ないですか。2周目も大丈夫です。大丈夫ですか。

[「いいです」と言う人あり]

○委員長（橋本和之君） では、よろしいですか。

以上で建設下水道課所管の審査を終了したいと思います。

大変お疲れさまでございました。ご退席をお願いいたします。

都市整備課（一般会計）

○委員長（橋本和之君） 説明が終わりましたので、これより質疑に入りたいと思います。

質疑のほうお願いいたします。

大谷委員。

○委員（大谷純一君） 課、局における事業指針の中で、主に2点なのですが、東部住宅団地拠点整備事業の1億2,000万と公園整備事業の1億円と出ているのですが、主に2つ、質問があるのですが、まず公園整備事業というのがマナベさんのところのスケボーパークということなのですが、これ私としては唐突に出てきたような印象があるのですが、これは例えば町民の方なりからそういうものを造ってほしいという要望があったのか、ましてや1億円、そのうち補助金が2,000万なのですか、t o t oのほうから来るのか、そうすると緑地管理ということで純然たる公園を造るということよりはコンクリートで造るというのは将来の維持経費としてはあまりかからないのでしょうか、どれだけの競技人口があるかと、それで確かに珍しいものなのですが、これが恒常的にそ

れを目当てに人がそこでやってくるのかどうかというのは調査なりをして決められたのかどうか。

それと、東部住宅団地の拠点整備事業なのですが、これ先ほど町長も森田局長もおっしゃっていたのですが、必要なものと欲しいものということで考えると、建物が古くなったから、新しくすると、これは必要なものなのですけれども、その中で例えば町でテナントを造って、そこで呼び込もうということというのは、私はちょっと違うかなと思うのは、もしそういうあそこのジョイフル本田のこのメインストリートで飲食店なり商売をやってもらいたいという人がいるのであれば、本来は土地を売却して、その人が建物造って商売をしてもらおうというのが基本だと思うのです。それを町が造って、とてつもないお金ですよ、この1億2,000万というのは。そこでどれだけの家賃収入というか、設定するか分からないのですけれども、そこでそれだけの経費を掛けて、業者が2つ入ったところでも恒常的にそこをやっているのかどうかというのが相当心配な面があるのですけれども、その辺伺いしたいと思います。

○委員長（橋本和之君） 遠藤室長。

○企業誘致推進室長（遠藤弘章君） ご質問にお答えいたします。

まずは、なぜそこにというところかなと思うのですけれども、第1にこの整備の場所につきましては、住宅地に隣接していない場所です。そこに通常どおりの公園を整備してもあまり利用されない可能性が高いところからスタートしておりまして、係内で調べ出してから3年ぐらいいろいろ見に行ったり、企業さんにお話を聞いたりというところで検討してきたところでございます。

スケートパーク、なぜかというところなのですけれども、一番の理由としては特色があって、一定の利用者が見込まれて、面積的にも可能な内容というところを模索した結果になるのですけれども、周りにもまだ近場にはないというところでスケートパークがいいのではないかとこのところでございます。利用者の見込みなのですけれども、実際に委託して調査とかというのはしておりませんが、同様のスケートパークであります太田市であったり、加須市のほう、そこら辺を視察しておりまして、平日の昼間にもかかわらず、十数名の方というのが利用していて、駐車場を見ますと、停車してある車のナンバーも都内のナンバーであったり、結構遠方から来られている方というのも見受けられましたので、一定の集客力のある施設になるのではないかなというふうに考えております。

続きまして、拠点整備事業なのですけれども、なぜ町が整備をといるところかと思うのですけれども、ご存じのとおりかと思うのですが、千代田町において商業系の立地というのが課題が多くて、その課題の一つとして、近年の建築費の増加といいますか、高騰ですか、というのが1つ挙げられるかと思うのですけれども、大谷委員がおっしゃったように、自らが建ててというのが一番いい形ではあるかと思うのですけれども、なかなか自ら建物建てて、商売を始めるというところまでちょっと資金が追いつかないというケースが多々あるかなというふうに考えまして、そこで町が建物を建てて、賃貸をするというところで初期費用が抑えられたりというところで出店がしやすくなるのではないかなと考えております。そこに加えて、町の事業であれば補助金の活用も期待ができますので、町の負

担が抑えられるとともに、これ財政部局と協議は必要ですけれども、賃料、町の負担分を20年から30年で償却できるような賃料設定をすることで通常の家賃収入は民間のものよりも安く抑えられることによって、出店がしやすくなるのかなというような考え方でございます。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 高橋町長。

○町長（高橋純一君） まず、説明する前に、あの近辺の歴史をちょっと皆さんに知っていただきたいのです。ジョイフル本田、あそこは商業施設でした。あの反対側のマナベさんのところ、これは住宅用地だったのです。私も議員をやっていた当時、住宅用地では向こうがまだそうは売れていないから、商業用地に変更したほうがいいだろうということで商業用地に変更したのです。今から十三、四年前だったと思うのです。住宅用地にしている。そのときは既にもう、ジョイフルさんが14年経ちますか、オープンして、震災があった日ですから。ちょうどオープンして14年たったのです。マナベさんが3年だと思うのです。そういう歴史があったわけです。当時、たしか310件ぐらい、東部住宅団地を売り出したと思うのです。売り出して、残りが、先日もお話ししたように、約80、79区画になったと、職員も必死の覚悟でいろいろ売っている。営業を掛けたりして、ここまで来たのです。一向にして商業用地、あそここのところは一向にして金額は約3,000万なのです、3,000万円ですけれども売れない。十何年経って売れない。売れないということは時代の変化とともに、やはりその3,000万投資して、あそこに何か建物を造って商売していこうという方が現れないのです。我々もいろいろ営業掛けました。医者と呼んだらどうだろうとか、そういうあれもいろいろ掛けましたけれども、なかなか投資する人がいない。さらにはその反対側、関口建設さんの裏側、あそここのところもあの方が買ってもう10年以上経っているわけです。看板が上がっている。ご存じのように、あそここのところも土地を買って、そこに建物造って、投資ができない状態と、更にはそれを向こうの利根大堰方面に向かいますと、あそここのところが凸版印刷が寮を造る予定でしたよね。これもいつの間にか向こうに持っていかれてしまったと、明和さんに。私も就任してすぐ行きました。あそここのところも何の計画もありませんと、買ってもらえますかと、でも10年間売ることができない。そのような歴史があるわけです。

今遠藤室長のところでいろいろ打ち合わせをしたり、あれやっているのだと思うのですけれども、ではあのままでいいのかと、私もあそここの場所と関係なしにして、町の公有地というのが結構あるのです、千代田町は。そのまま草刈りしているのではしょうがないということで、何か所か、それは売却する方向で売却しました。更には公有地以外でも家が崩れそううちもあって、公道のほうにそれが出てくるようなところもあったわけです。地主さんに行き会って聞くと、「非常に見栄えが悪い。売ってしまいたい」と言うので、そこも今住宅が十何棟ちょっとぐらいできていたのですか、そういうことが町の活性化につながっていくのかなと私は思っています。ですので、あそここのところも職員が行って草刈りやったりしているだけでは、これ仕方ないかと、そこでいろいろ考えるわけです、我々も。考えて、では町があそここのところに投資をして、土地を買っていこうではないかと、建物造っ

て、家賃収入で、今遠藤室長が述べたように、償却もありますから、そこで長い目で見ると、そこで家賃収入を上げてペイにしていこうではないかと、そうすることによって、町の活性化につながっていくのです。スケートパークもそうです。スケートパークは、これ収益を生むかどうかまだ分かりませんが、これも近くだと太田市のほうが造って、オープンしましたよね。あそこに若者が来ることによって、今空いているところは商業地、マナベさん、ジョイフルさん等々も相乗効果も生まれてくるだろうという予測の下、我々もあそこにスケートパーク、オリンピックの種目にもなっていますから、人が来ることによって、町の活性化にもつながっていくというふうに考えています。更には今ある方向で、案内所のほう、これももうかなり古くなってきています。行ってみれば分かりますけれども、風が入ってきます、北風が。その中で2人が頑張っていると思います。そんな中で、できれば新たにそれを造るところに、1店舗はそこに越してもらったらどうだろうという計画も考えています。では、そこが空くわけですから、空いたところは何かまた。あそこはもう宅地でないですから、建物はできませんから、そのようなことを考えて、いろいろまだ計画のほうはこれからなのですから、そのようなことです。皆さん見ても分かるように、あそここのところバイパスからずっと入って左曲がって、案内所のほうに向かっていきますと、向こうに共同コンクリートさん、あそこが緩衝緑地になっているのです。緩衝緑地というのは、住宅地とロケーションも工業地帯と、その間が見栄えもいようにそこに緑地帯と設けるのが緩衝緑地ですよね。あれを見ますと、正面に入ってくるのがコンクリート製品なのです。ですので、あそここのところは緑地化していきたいと、そこに人が、あそこにうどん屋さんもあったりしますから、休憩所もあそこに、休憩できてくつろげるような場所も造っていきなと、こういう計画で考えています。ですので、それを考えていきますと、これから活性化につなげていくというのが大前提です。ですので、あそここのところにスケートパークを造ったり、今まで売れなかった小さいほうの土地、向こうのナックルの南側、こここのところにもテナントとして、新たに造っていこうと、そこに投資をしていこうというふうに考えています。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 宗川副町長。

○副町長（宗川正樹君） 1点、私は、西邑楽土地開発公社というのは基本的に非営利団体ということでありまして、おかげさまで工業団地も売れて、現金を保有していると、そのようにしておけば、ただそれで終わってしまうと。今回は3億円寄附を受けたわけなのですからけれども、ではこの3億円をその道路が悪いからその道路に充てようとか、福祉をもっと発展させようとか、そういうのには使ってはいけないという、そもそも基本的な考えが、県のほうもそれだと認められないということなので、どうしても、そうすると西邑楽土地開発公社の現金を寄附された分はふれあいタウンの中のものにしか使ってはいけないという基本的な使い道の規制があると。その中で何をしたらいいかということで、先ほど町長がおっしゃったように、あのふれあいタウンの魅力を上げて、あそこをもっと販売促進をして、いいまちづくりをしていこうというような判断に至って、今回このような事業となり

ました。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 大谷委員。

○委員（大谷純一君） 今町長から緩衝緑地というお話があったのですが、実際この緩衝緑地のあそこは私も見てきたのですが、結構ハリネズミというか、木の幹だけみたいになっていて、よく見えてしまうのですよね。そこにまた植えるということなのでしょうけれども、その植栽費というのは別に書いていないよね、幾ら分というのは。それは出ているのですか。この3億寄附される中で、一応スケートパークのほうで1億で、もう一つのほうのお店を造るというほうで1億5,000万というのは全協のときにご説明があったのですが、その中に含まれているのか、それとは別にお金がかかるのかと、その辺教えていただきたいのですが。

○委員長（橋本和之君） 遠藤室長。

○企業誘致推進室長（遠藤弘章君） ご質問にお答えいたします。

その植栽の部分につきましてもその拠点整備事業の中に含まれているような形になりますので、土地代金の3,000万の予算を除いた1億2,000万の中にそこも含まれているというようなことになっています。

○委員長（橋本和之君） 大谷委員。

○委員（大谷純一君） 植栽分というのはいくらぐらい見ているというのはないのですか。まだ出ていないのですか、ここは。

○委員長（橋本和之君） 遠藤室長。

○企業誘致推進室長（遠藤弘章君） まだ、こちらについてもプロポーザルでご提案いただくような形になっていますので、そこら辺の金額もまだ出てはいないです。

○委員長（橋本和之君） いいですか。

高橋町長。

○町長（高橋純一君） 今室長が述べたように、プロポーザルで提案していただくと、概略ですが、向こうに目隠しだけでいいわけですから、単純に70メートル、80メートルぐらいの距離でしたっけ、あそこが。そうすると、掛ける3なのです。メートル3本と樹木植えて、そうすると大体それが1本当たり、それを植栽込みで4,000というふうにしていこう、そうすると80メートル、240×4,000円、100万ちょっと、経費入れても200万までかかっていかないと、そんな計算になるかなというふうに思っています。あそこは行ってみると分かると思うのですが、非常に見栄えが悪い。そっくり見えてしまっている。ミニスカートになってしまっているのです、シラカシが。なので、こちら側にある、また今案内所があるところのほうはまたこれから考えていくと、あそこも公園化とか何か考えていく。議員の皆さんにも提案していただきながら考えていく必要があるかなと思っています。いずれにしても、あの辺もいくつか歯抜けで商業地もまだ残っていますので、今回試しにそれを

一回投資をして、町のほうでやって、更にそれから状況を見た中で空いているところも考えていく必要があるかなというふうに考えています。

以上です。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑のある方いらっしゃいますでしょうか。

原口委員。

○委員（原口 剛君） 1点教えていただきたいのですけれども、マナベさんの南側の商業用地、ずっと空き地になっているかと思うのですけれども、これを、私議員になって5年目ですけれども、誘致活動を行ってきて、まだその成果がちょっと見えないなと思っていまして、現状のところどのような状況になっているのか、教えていただきたいと思います。

○委員長（橋本和之君） 遠藤室長。

○企業誘致推進室長（遠藤弘章君） ご質問にお答えいたします。

マナベの南側の商業用地の現在の状況ですけれども、今2社ほどが検討はいただいているのですけれども、実際毎度おなじみの回答にはなってしまうのですけれども、まだどうなるかは分からないというのが正直なところでございます。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 高橋町長。

○町長（高橋純一君） もうちょっと踏み込んだ話をさせてもらいますと、引き合いはいくつかというか、たまには来るのです。それもディベロッパーを通しながらとか直接とか来ています。来ているのですけれども、実は私も先日大川課長と室長とあるところに行ってきました。行って、いろいろお話ししてきて、再考していただくということで、その代わりに条件を付けられているのです。条件というのはいろいろな部分で、それはまだちょっと伏せなくてはならないのですけれども。取引の条件ではないのです、でなくて、いろんなことを、状況を把握したい部分の条件なのですけれども、そのようなことで今いろいろな部分で交渉中ということです、今現在。大きいところ、マナベのすぐ南側です。そんな状況です。そこまではお知らせしておきます。どうなるか、まだ分からない、これは。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 原口委員。

○委員（原口 剛君） 分かりました。ありがとうございます。

もう一個、別件というか、あるのですけれども、ジョイフル本田さんの東側で南側、三角形の芝生が植わっているところの公園というか、空き地というか、あそこの使い道というのはどのようなことを考えているのか。結構あそこ見ていますと、やっぱり町外の人が犬を散歩されているのですよね、あそこちょうど三方というか、四方囲まれていますので、フェンスで。なので、そういう利活用もあるのかなと思うのですけれども、駐車場がないので、路駐されたりとかしていますから、その辺をどのように考えているのかを教えてください。

○委員長（橋本和之君） 遠藤室長。

○企業誘致推進室長（遠藤弘章君） ご質問の三角の緑地の部分になってくるのですけれども、こちらについては、実は昨年、その２年前ぐらいですか、活用についてはもちろん考えていまして、原口委員がおっしゃったように犬の散歩で使っている方というのは結構見られて、私たちのほうもドッグランとしての活用ができないかというところを検討しました。それで、ジョイフル本田に隣接しているので、ジョイフル本田さんに無償で貸すので、ドッグランとして活用していただけないかというところで協議をして、ちょっと１年ぐらいかかってしまったのですけれども、現時点ではちょっと難しいというところを言われまして、現在はその次の策を考えているところではございます。ただ、町の用地でこういった未活用というか、なかなか使い道がない部分につきましてもこれから徐々に同様に考えていけたらなとは思っております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） いいですか。

ほかに質疑のある方いらっしゃいますでしょうか。

茂木委員。

○委員（茂木琴絵君） 予算と関係あるかどうかはちょっと分からないのですけれども、今土地のことであるとかスポーツ振興くじについてとかどのような、助成金なので、活用するのにどうしても縛りがあるというお話は聞いたのですが、私、新福寺なのですが、新福寺のほうにもぜひ公園というか、そういうものを整備できるようであれば、次の機会にはお願いしたいなというのと、あと最近のことというと、行田のスタバがすごく問題になっていますけれども、やっぱりスターバックスであっても、タリーズコーヒーであっても、猿田彦であってもいろいろコーヒーショップってあると思うのですけれども、やはり憩いの場として集客には非常にいいと思うのです。なので、ぜひそういうコメダであるとかそういうのもいろいろありますが、やはり千代田町の利点として、ある程度車の駐車場スペースが取れるというのは非常に有利な点だと私は思っていて、なので車に乗ったままって皆さんよく利用されると思うのですが、いろんなところでもドライブスルーが非常に今活用されていて、下、何を着ていても店舗に出ない、出なくて、パジャマでも恥ずかしくなく買えるという、そういうメリットもあると思いますので、ぜひそういう土地の件の縛りも多分あるとは思いますが、ある程度の店舗自体も大きく取っていただいて、これから橋ができて、架橋ができると、多分いろんなところに車からいらっしゃる方も多いでしょうし、あとは大きな車で移動というのも考えられますので、店舗には必ず駐車できるところ、ドッグランにしてもある程度の余裕があるような形にいただけると、造った店舗プラスアルファの次のときにも発展しやすいと思うので、ぜひそういうことを考えてやっていただければと思います。今回の予算とちょっと関係ない話で失礼しました。

○委員長（橋本和之君） 遠藤室長。

○企業誘致推進室長（遠藤弘章君） ご質問の公園とかというところではあるのですけれども、スポ

ーツ振興くじ自体はスポーツ施設のものというところになりますので、公園整備につきましては、恐らく社会資本整備総合交付金の中で公園整備の補助があるかと思いますので、そういったものを活用しながらいろいろ進めていければと思います。

それから、コーヒーショップとかというところでございますけれども、私たちの企業誘致推進室でもコーヒーショップというのはもちろん営業に行っておりまして、その中でかなりシビアに周辺人口を見られるのが大手のスターバックスさんが特にそうなのですけれども、なかなか条件クリアが難しいというところではございました。ただ、今後新橋が通ったり、人口抜きにしても交通量の増加であったり、道の駅ができたとして、その滞留人口であったり、そこら辺を加味しながら、まだ可能性はあるかと思いますので、そこら辺を含めながら検討していければと思います。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 茂木委員はよろしいですか。大丈夫ですか。

○委員（茂木琴絵君） はい、ありがとうございます。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑のある方。

畑中委員。

○委員（畑中弘司君） 1点質問させていただきます。

次期工業団地のため必要な下準備を行い、早期実現を目指す、本年度求める効果のところにおいてありますが、これに対して、本年度どのような計画を立て、どのような予算を立てられたか、これも分かる範囲で結構ですが、教えていただけますでしょうか。

○委員長（橋本和之君） 遠藤室長。

○企業誘致推進室長（遠藤弘章君） 工業団地についての予算自体は、地元説明会とかそこら辺にかかる経費のみというところになっています。造成については土地開発公社のほうになりますので、そちらのほうで順次お金のほうを予算盛りをしていくという形になります。

令和7年度につきましては、ちょっと説明でも触れたのですが、県の企業局と町と、あと公社の3者で役割分担の協議というところから入らせていただきます。それが終わった後、不動産鑑定だとか測量であったりといったような測量調査設計というところに入りながら事業化に向けて進んでいくというところがございます。

用地買収につきましては、現時点での予定ですと令和8年度からスタートするような形になっておりますので、来年度につきましては、それほどお金を使うようなところはないのかなというふうに思っております。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 畑中委員。

○委員（畑中弘司君） 以前に恐らく町長から全協のときにご説明あったかと思うのですが、この工業団地に関しては、一番最初ちょっと計画がうまくいなくてできなかった工業団地ということで、

恐らく地元の方、首を長くして待っていらっしゃるのかなという認識をしておりますので、なるだけ住民の方に説明をしていただくような機会を取っていただいて、予算、今回あまり取っていないと言いますが、恐らく皆さん賛成してくれると思いますので、ぜひともそういった計画で進めていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑のある方いらっしゃいますでしょうか。

柿沼委員。

○委員（柿沼英己君） これから工業団地の準備ということなのですが、明和町のほうがツムラさんが来るということで、投資額も1,500億とか、収益力もあるのでしょうか、ぜひ次期工業団地のときは企業局とよく相談していただいて、収益力のあるというか、投資額も新聞に出るような、そういった会社が来ればいいなと思うのですが、その辺は運もあるのでしょうか、その辺の見解を伺います。

○委員長（橋本和之君） 遠藤室長。

○企業誘致推進室長（遠藤弘章君） 質問にお答えさせていただきます。

おっしゃったように運もあるのですが、売るときに社会全体の流れがどうなっているかによって、大分変わってくるところかなとは思っております。ただ、現時点で引き合いのほうもございしますので、その中から町にとって、住民にとって有益な企業のほうを選定させていただければなと思っておりますので、よろしくお願いします。

○委員長（橋本和之君） 高橋町長。

○町長（高橋純一君） 今室長が述べたように、町道、今これから3年間掛けて買収して造成して、4年後ぐらいにそれを売り出すという計画は建っています。建っているのですが、そのタイミングでちょうど企業さんのほうもいろいろ計画立てるわけですね。そうしますと、そのタイミングがちょうど合うか合わないかと、我々の計画に合わせてもらえるかというのがありますけれども、その辺を含めた中で、できれば優良企業というか、その辺はいつでも念頭に置きながら、我々も営業展開していきたいというふうに思っています。ただ、今室長が述べたように、今現在のほうもどうでしょうかというのはいくつか来ていると、ただそれは我々が勝手に決めるわけにいけないので、これもこの企業でよいか悪いかというのも検討委員会というのがありますので、それは会議開いて、そこで決定をしていただいて、それからオーケーですよという流れになりますので、優良企業が来られるように、タイミングもありますけれども、そのような形で動いていきたいと、このように思っています。

以上です。

○委員長（橋本和之君） 柿沼委員。

○委員（柿沼英己君） ぜひとも優良企業という物差しである程度選んでいただければと思います。

○委員長（橋本和之君） ほかに質疑のある方。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（橋本和之君） 2周目行きますか。大丈夫ですか。

〔「はい」と言う人あり〕

○委員長（橋本和之君） では、いいですね。大丈夫ですか。

〔「はい」と言う人あり〕

○委員長（橋本和之君） では、以上で都市整備課所管の審査を終わりにしたいと思います。
大変お疲れさまでございました。